

自社ブランド住宅の 販売促進に向けた組織活性化

伸び悩む一般住宅事業を強化するため、意見やアイデアを出しやすい社内環境を作り出すとともに、自社ブランドに対する理解度向上やマーケティング手法の見直しなどを進め、販売促進に向けた下地を整えた。

▼
取り組み内容

Step 1
現状把握と課題整理

営業・設計・業務の各メンバーに、現場で抱えている課題や目指したい方向性などについてヒアリング。

Step 2
仮説の設定とブランド戦略立案

自社ブランド購入者のペルソナやカスタマージャーニーを設定した上で、ブランド戦略を立案。

Step 3
アナログマーケティングの実施

Step2で立てた仮説を基に、モデルハウス内のパネル掲示、折り込みチラシの見直しなどを実施。

Step 4
デジタルマーケティングの検討

Step2で立てた仮説を基に、ホームページのリニューアル、住宅情報サイトやインスタ広告の活用に着手。

受入企業

共和土木株式会社

代表取締役社長 高村 克宏 さん

1947年設立。富山県東部や新川地区における公共工事を中心に、河川工事や道路工事、海洋土木工事、公共建築物や店舗の設計施工などを幅広く手がける。2001年に一般住宅建築部門として共和ホームを設立。2018年から天然木の無垢材をふんだんに使った自社ブランド「mokka(モッカ)」を展開している。

協力研究員

馬場 知瀬子 さん

東京都生まれ。大学を卒業後、株式会社東急百貨店に入社。以降、一貫して小売業に従事する。2012年にオープンした複合商業施設「渋谷ヒカリエ」では出店開発を担当し、直近まで店長として8フロアの店舗を統括していた。数人から数百人単位まで、規模に合わせてチーム力を高めるマネジメントスキルや顧客視点での対応に強みを有する。

富山“Re-Design”ラボ 事例
CASE:

自社商品の
販売促進へ
組織を強化



取り組みの成果
・
今後の取り組み

- ・市場環境や過去の顧客プロフィールなどを分析した上で、自社ブランド住宅の購入者像や認知から購入に至るまでのお客様の行動を可視化して、販売促進に向けたブランド戦略を立案した。
- ・社員の意見やアイデアを取り入れながら、アナログとデジタルの両面から、マーケティング手法の見直しを図るとともに、社員の主体的な取り組みを後押しした。
- ・今後は採用に向けた会社の情報発信強化や社員に対するスキルアッププランの策定も視野に入れる。

虫 受入企業の評価・今後の関わり方

参加理由

- ・公共工事の受注が順調に推移する一方、一般住宅建築部門の業績は伸び悩んでいました。同部門を、自律的に戦略を立て、営業活動を展開できる組織として活性化するため、優秀な外部人材の力を借りたいと考え、本プログラムに参加しました。

評価（成果・社内変化など）

- ・社内の雰囲気にも協調性が生まれ、チームワークがよくなりました。会社としても改めるべき点を改めた結果、自分の意見やアイデアを積極的に発信してくれるなど、社員にも変化が見られました。
- ・馬場さんはしっかりとコミュニケーションを取り、社内に溶け込んでくれたため、社員からの信頼も厚く、さまざまな課題や改善策について率直な声を引き出してくれました。
- ・当初は半年間でどれほどの成果が出るのか疑問もありましたが、今までお願いしたどのコンサルタントよりも大きな成果がありました。研究員にとっては参加のハードルが上がってしまうかもしれませんが、会社としては1年間の事業でもよかったです。

今後の関わり方

- ・馬場さんとは業務委託契約を結び、引き続き、オンライン会議なども含めたサポートをお願いしています。社員の平均年齢が上がってきているため、今後は若い技術者の採用などについても、アドバイスをいただければと期待しています。

人 協力研究員の評価・今後の展望

参加理由

- ・生まれも育ちも東京で、ずっと渋谷で働いていたため、知らない場所で違う仕事ができないかと漠然と考えていました。そんなときに知ったのが本プログラムです。大学卒業後、一貫して現場で働いてきたので、大学でもう一度勉強できる点も魅力に感じました。

評価（取り組み・生活）

- ・社員の皆さんには、自分が会社でやりたいことを実現するため、あるいは会社に言えないこと言うために「私を利用して」と言いました。その結果、本音で話してくれるようになり、社員が意見やアイデアを出せば、会社の変化につながるというマインドに変化したように感じます。社員の声をもとに、実際に業務改善にもつながりました。
- ・大学で講義を受け、他の研究員と情報共有する時間はとても有意義でした。半年間という事業期間も参加しやすかったです。
- ・座って日本海と立山連峰を眺めながらの電車通勤を体験し、都会の通勤ラッシュにはもう戻りたくないと感じました。土地の豊かさを実感し、気象や伝統産業などにも興味の幅が広がりました。

今後の展望

- ・プログラム参加をきっかけに新たな働き方も見えてきました。仕事を手伝ってほしいと声をかけてくれる会社があるほか、富山の企業との関りも増えていきそうなので、今後は共和土木さんとの仕事も継続しつつ、東京と富山を行き来しながら働きたいと考えています。